

国際協力に関する KEK 素粒子原子核研究所への要望書

KEK 素粒子原子核研究所 齊藤直人所長

近年の高エネルギー物理プロジェクトの多くは世界的な国際協力のもと進められている。CERN がホストする LHC 実験はその典型例であり、また、KEK が主導する Belle II や T2K 実験も参画者の大部分は外国人であり、グローバル化がプロジェクト推進の鍵となっている。日本がホスト国となりその実現を目指す ILC 実験においても、日米欧の 3 極による国際分担が不可欠かつ最重要な課題である。

このような状況を鑑み、高エネルギー委員会は、KEK が LHC 高輝度化 (HL-LHC) に主体的に貢献し、CERN については日欧の国際協力関係を強化することを要望する。CERN 非加盟国の中で日本が最初に LHC への参画を決めたことにより、米露も参画する国際協力の枠組みで LHC が推進されることとなった。この象徴的な出来事が CERN と日本との間で特別な友好関係を築き、ATLAS 実験など多くの国際共同研究の推進に日本人研究者の存在が不可欠となった。さらには、CERN 夏の学校の日本人学生参加枠や、CERN フェローの日本人採用枠が設けられるなど、非加盟国ながら加盟国が持つ権利の一部を持つことが許されるに至った。

HL-LHC に対しても LHC 同様に日本が大規模な国際協力の推進を主導することにより、HL-LHC のみならず、今後の、B ファクトリー実験、ニュートリノ実験、ミューオン実験、ILC 実験などにおける国際協力の発展が期待される。HL-LHC に対する積極的な貢献により、欧州各国の高エネルギー分野のまとめ役である CERN にて日本が高いプレゼンスを確保し、各種国際共同実験を主導していくことを、コミュニティを代表して改めて要望する。

令和 3 年 1 1 月 1 4 日

高エネルギー研究者会議 委員長 浅井祥仁